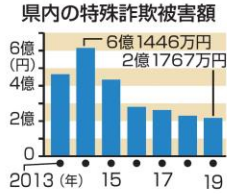




「おれおれ詐欺」「架空請求詐欺」など特殊詐欺の被害が後を絶たない。ターゲットになっているのは主に高齢者。県警は「怪しいと思ったらすぐに電話を切ってほしい」と呼び掛けています。

①県内で昨年確認した特殊詐欺の被害は何件？ そのうち65歳以上の高齢者が被害になっていたのは何件ですか？



県警によると、県内で昨年確認した被害118件のうち、半数の59件は65歳以上が被害者になっていた。今年に入ってから、大分市の80代女性が県内過去最高額の約9千万円を架空請求でだまし取られたことが発覚。2月中旬には同市

防げ！ 特殊詐欺

狙われる高齢者

1面から続く  
特殊詐欺のターゲットになっているのは主に高齢者だ。

「個人情報が漏れた」利用料金が未納」「新型コロナウイルス対策で助成金が出る」詐欺グループは偽りのストーリーを持ち掛け、あの手この手で迫っている。最初は種やかな口調だが、途中から「逮捕」「訴訟」といった言葉で不安をあおることも多い。約9千万円の被害に遭った女性は約5カ月間、受け取り役の男に繰り返し現金を渡していた。刑事裁判での検察側の説明によると、女性は逮捕と聞いて生きた心地がしなかった。絶望的な気持ちになったという。

話せば話すほど引き込まれる

「怪しい電話は切って」



高齢者らを狙った特殊詐欺が相次いでいる。言葉巧みに預貯金額を聞き出され、だまし取られるケースも多い (写真はイメージ) =撮影・元木隆介

巧みに引き込まれてしまう。県警は「相手はだましのプロ集団。怪しいと思ったら、すぐに電話を切ってほしい」と呼び掛ける。「信用のある職業」行政や金融機関の職員、弁護士、警察官といった信用のある職業」をかたるのも特徴だ。「周りに言わないで「私たちが対応するから」と何度もくきを刺し、犯行の発覚を遅らせようとする。被害者が気付いたときには既に多額の財産が失われている。精神的なショックも大きく、県警安全・安心まちづくり推進室の大熊建國室長(51)は「自殺を試みたり、家庭が崩壊する恐れもある」と説明する。他人を信用できなくなつて外出を控えるなど、それまでの生活が激変することも珍しくない。だまされたことを恥じたり、家族に責められることを恐れている人もいる」という。

②詐欺グループが持ち掛けてくる偽りのストーリーにはどんなものがありますか？ また、犯人はどんな職業をかたって電話してきますか？

③県が4月1日に施行した特殊詐欺等被害防止条例はどんな内容？

県条例を生かそう  
官民一体で歯止めをかけるため、県は1日、特殊詐欺等被害防止条例を施行した。特殊詐欺に特化した条例は熊本、埼玉などに続き5県目だ。  
金融機関やコンビニなどに対して客への積極的な声掛けを求め、詐欺グループのアプローチを県内につくらせない対策を推進。被害者のカウンセリングなど精神的ケアも盛り込んだ。  
条例を生かせるかは県民一人一人の意識にかかっている。大熊室長は「警察の力だけでは限界がある。相談できる家族や近隣住民がいるだけで防げるケースもある。被害撲滅には地域の力が重要」と訴えている。

（羽山草平）  
＝5回続き＝

④もし、あなたの家に怪しい電話がかかってきたら、どんな対応をしますか？ 話し合ってみましょう。